ガーデニングサポーター養成講座

ベランダガーデニング入門　9月
総括編

光と風と水と土

植物は、日照と空気と水と土（肥料を含む）が無いと生きていけません。このどれかが足りなくても多すぎてもいけないのです。

道端に生えている雑草は、環境が生育に丁度良い為人が何もせずとも栄えているのです。気に入った雑草を家に持って帰って、大事に育てたらかえって枯れてしまうかもしれません。やはり野に置け蓮華草です。

私たちが園芸店で買ってくる苗や種は、元々自然には上手く育たないものが多いのです。その上大抵気候と合わない場所で育てるので、更に難しいのです。

写真はヤブツルアズキです。畑の小豆よりずっと育てやすいのです。所謂雑草です。

植木鉢と土

ベランダでは植木鉢が必需品です。素焼き鉢、駄温鉢、プラスチック鉢の順で乾きやすいため、使用する用土を工夫しなければなりません。

軽い土は乾きやすく、重い土は乾きにくい傾向がありますが、水苔と砂はすこし違いますので注意が必要です。

更に鉢の大小、置き場所の日当たりと風通しによって大きく生育が変わるのです。

植物の性質がよく分からない時は、出来るだけ乾きやすい鉢を使って、軽い土で頻繁に潅水するのが安全です。
植え替えて、いきなり日に当てるのもいけません。
大抵は肥料もあまり考えなくても結構です。

大抵はあまり手をかけない方が上手く育つのです。

肥料について

お金を出して買う肥料は、昔は金肥といって贅沢なものでした。家庭の廃物の米のとぎ汁や卵の殻、貝殻、焚火の灰、どぶさらいの泥などを肥料として植木は育ったのです。写真は、20年前にカップ麺の殻に庭の土を入れて、挿し木した木瓜です。健気に生きている姿が可哀そうですから、時期が来たら適当な鉢に植え替えてあげます。
実は、深く考えなくともガーデニングはできるのです。

植物を育てる際の失敗の原因は、水と肥料のやりすぎ、根のいじりすぎが多いのです。地先園芸といって、路地裏などで、好き勝手に路にはみ出して植木を育てているのを今でも見ることができます。風景に溶け込んだ飾らない素敵さがあるように思います。植物の扱いが分かっての上での粗放栽培がガーデニング成功の秘訣です。